

# 世界一フレンドリーな野生イルカと遊べる海

クルーズ船でドルフィンサイトを訪れた人は皆、

地球上にこんなに美しく

優しい海水をたたえる場所があったのかと息を飲む。

現実離れた不思議な海域にいれるだけでも

心が癒されていくのがわかる。

しかし、この海の感動はそれだけでは終わらない。

癒しの海の彼方から姿を見せるのは、

世界一フレンドリーなイルカたち。

「さあ、一緒に遊ぼうよ」

**Bahama** Photo&Text  
**DolphineSite** Takaji Ochi

Special thanks : INTO THE BLUE / <http://www.takajiochi.com>

バハマ・ドルフィンサイト



中にはダイバーに触られるのを好むイルカもいる

「遊ぼう！遊ぼう！」全身から遊びのオーラを  
 発散させてイルカたちがやってくる

どこまでも続く、浅い白砂の海底。無風で、ベタ凪ぎとなり、青く美しい海水をたたえる海は、まるでプールのような穏やかな表情を見せている。パハミアンブルーの青い青い海の向こうから姿を見せるのは、この海に住む野生のタイセイヨウマダライルカたち。移動する船の船首に向かって、子イルカたちが嬉しそうにジャンプを繰り返しながら近付いてくる。その様子は、「遊ぼう！遊ぼう！」というオーラを全身から発散させて、子犬が飼い主に向かってとしっぽを振りながら元気に走りよって来る様にどこか似ている。船に着くと、しばらくは、パウライド(船首について、船の作り出す波に乗る)を続ける。キャプテンが様子を見計らって、そろそろだなと思うと、パウに身を乗り出してイルカたちを見ていたゲストに向かって「オヨグ？」とちょっと妙なアクセントで合図を送る。

ゲストたちは、「イエス！イエス！」と答えながら、すでにエントリーをする船尾のダイブデッキに向かって大移動を開始している。船のスピードを緩めると、イルカたちが船尾に回り込み、僕らがエントリーするのを今か今かと待ち受けているのだ。信じられない！船のエンジンをニュートラルに入れ、キャプテンが「OK!」のサインを送ると、ガイドのクルーを先頭に、ゲストたちは次々に真っ青なプールのような海中に、勇んで

何度も何度もジャンプしながら嬉しそうにボートに近付いて来るタイセイヨウマダライルカの子供



飛び込んで行く。

エントリーした時にできるバブルの煙幕を避けるように、数メートル程海底に潜っていくと、すぐに数頭のイルカたちが出迎えてくれた。海中で彼らに合わせて回転すると、「キュルキュルキュル…」と嬉しそうに身を翻して、気孔部分からポコポコと小さな気泡を出し続けながら、一緒に回転する。縦横無尽にダイバーとダイバーの間を行ったりきたりして、愛嬌を振りまくイルカもいる。一生懸命にイルカに着いて泳ごうとするダイバーをからかうように、ちょっと前を泳いで、「追い付けるものなら追い付いてみな」とばかりにテール(尾びれ)をクィクィッと動かして牽制する奴もいる。からかわれているようで、ちょっとむっとするのだが、その相手が野生のイルカなのだから、笑ってしまう。それ以前に、野生動物にそんな人間的な感情を抱く事自体、そうあることでは無いだろう。しかし、この海では、そんなダイバーと野生のイルカの、微妙かつ楽しい駆け引きが、クルーズ乗船中、日常茶飯事に行われてしまうのだ。

**Bahama**  
**DolphineSite**



バハマアンブルーの  
穏やかな海中を、  
イルカたちが  
縦横無尽に泳ぎ回る

美しい白砂の海底を気持ちよさそうに泳ぐ若いイルカたち



母親イルカが、生まれたばかりの子供を  
紹介しにやってきてくれると嬉しくなる

タイセイヨウマダライルカは、4歳くらいまでは親子で行動をとる

バハマ連邦は、アメリカ合衆国、フロリダ半島の東岸、約800kmにわたって、723の島々と2500の岩礁からなる、諸島国家だ。この島々の中でも、もっとも北に位置するのが、首都ナッソーのある島の次にリゾート化の進むグランドバハマ島。東西に細長く続くこの平坦な島の北側に広がる白砂とサンゴを中心とした浅瀬の海域をリトルバハマバンクと呼ぶ。フレンドリーなタイセイヨウマダライルカたちに会えるのが、その北西端。通称ドルフィンサイトと呼ばれている海域。その中でも、最も美しい白砂とバハミアンブルーの海が広がる、絶好のドルフィンスイミングポイントが、ホワイトサンドリッジと呼ばれるさらに限定された海域。島影一つ見えないのに、水深3mくらいの浅い白砂のプールのような海底が広がり、ビギナーダイバーに対してさえ、海に対する恐怖心を忘れさせてしまう程、安心感のある優しい表情を見せてくれる。

この海域で20年以上に渡り、ドルフィンスイミングクルーズと、タイセイヨウマダライルカの個体識別を行っている、ドリームトゥー(DREAM TOO)号のウェイン・スコット・スミス船長によると、この海域には約70頭からなるサザングループと約50頭からなるノーザングループ、計120頭程のタイセイヨウマダライルカたちが生息している事が確認されている。彼は、その多くにニックネームをつけていて、特に顕著な特徴や性格を持っている個体などは、船上からでも、簡単に認識してしまう。

多くの場合、もっとも透明度の高い海域で、頻繁に

遊ぶ事ができるのは、ノーザングループ。1週間のドルフィンクルーズ期間中、ウェストバームビーチから、ドルフィンサイトまでの移動日を省くと、実質イルカを探し5日間で、早朝から日没まで、延々イルカたちと泳ぎ続けるなんてことも少なくない。もちろん野生のイルカ達の事だから、まったく会えない時や、天候不良で、探しに行く事さえできない事もある。でも、そんな日もあるからこそ、出会えた時の感動、喜びも倍增するのが、野生の動物に会いに行く事の魅力の一つでもある。

もちろん、最後まで会えないと気持もブルーになってしまうかもしれないけど、今まで30回近いドルフィンクルーズ経験から言わせてもらえば、最後の最後、「ここで姿を見せて欲しい！」と願った時に、最高のタイミングでやってきてくれる事が多かった。まるで僕らの気持を察してくれているようなイルカたちの出現に、「他の動物とちょっと違うのかな〜」なんて思ってみたくもなるってものだ。自分にとっては毎日たくたになるほど泳げる満腹のクルーズよりも、最後の感動が押し寄せる、そんなクルーズの方が記憶に残る。今年も、バハマの海で、イルカたちとのそんな感動の出会いをしたいと思っている。

**Bahama  
DolphinSite**

（右）ハウからイルカを泳ぐダイバーを眺める（左）出発前にクルーズに臨む人々の笑顔





野生のイルカたちと人間との  
海中での楽しい駆け引きが、  
当然のように行われる毎日

イルカたちはダイバーの泳ぎに合わせて一緒に泳いでくれる

# イルカと出会えた日は、 船上にも満面の笑みがひろがる

イルカと泳いでご機嫌のDream Too号のクルーとゲストたち



ダイバーが差し出した黄色のバンダナをくわえるイルカ



## ドルフィンサイトで出合えるイルカは？

①**タイセイヨウマダライルカ**:ドルフィンサイトで人気者たちは、体長約2mと小降り。子供の頃はマダラ模様が無くて、ツルツルの皮膚をしているのだが、4歳くらいから、身体にマダラが発生しはじめる。それと同時に親離れして、親よりも仲間達と行動をともにするようになる。マダラの着き具合や傷の着き具合で、個体識別しやすいが、マダラは年齢とともに増えていくので、継続的な観察が必要だ。

②**バンドウイルカ**:日本でも御蔵島や小笠原と一緒に泳ぐ事ができるのが、このバンドウイルカ。体長はマダライルカよりも大きくて、約3m。バハマではマダライルカの方がフレンドリーではあるのだが、最近では以前にも増して、バンドウイルカと泳げるチャンスが多くなっているような気がする。マダライルカたちと違って、成長しても、身体がつるつるでだし、骨格の違いでバンドウは首をぐいっと曲げて覗き込んでくる。その仕草はやっぱかわいい。

## クルーズ生活ってどんな感じ？

船やチャーターベース、あるいは個人客の集まりかで、船の雰囲気は全然違う。ドリームトゥー号は、シーズン中、人が集まればどちらのスタイルも行っている。

今年から船が変わる予定なので、全てが参考にはならないが、ドルフィンサイトでの1日のスケジュールとしては、8時頃から朝食。これは一斉に食べるのではなくて、起きてきた人から順番に、シェフ担当のクルーが朝食を作ってくれる。

10時頃から停泊先からドルフィンサイトの中心、ホワイトサンドリッジに向かって移動、イルカを発見して遊びそうであればドルフィンスイムを開始する。ランチタイムにもイルカと一緒に続ける事があるので、この時はピザなどを作って、それを食べながらスイミングを続ける事もあれば、スイミングを一時やめて休息、トップデッキから他の人がイルカと泳ぐのを眺めている人もいます。日没近くまで、イルカ探しとドルフィンスイミングは続けられ、もしコンディションが穏やかであれば、夜、外洋の深い海のエリアにてナイトドルフィンスイミングを行う事もある。

イルカが出ないときには、トップデッキやパウで海を眺めたり、身体を焼いたり、読書をしたり、睡眠を取ったり、皆好きなように過ごしている。もし探してもなかなかイルカが出ない場合は、浅く綺麗な海域で船を停泊させてシュノーケリングをすることもあり、

その時にイルカがやってくることもある。

日本人ゲストがいる場合は、炊飯器でのご飯も用意してくれるし、クルーズ半ばにして、疲れている頃にそうめんを出してくれたり、釣り上げたツナで刺身や寿司を握ってくれるのが日本人には嬉しい。

## どうやって行くの？

バハマのドルフィンサイトに行くには、ドルフィンクルーズを催行しているクルーズ船に乗船しなければならない。そのほとんどがフロリダ半島東岸の都市から出港している。一番有名なのが、今回紹介し、僕たちも毎年5~7月頃にチャータートリップを行っている ドリームトゥー号で、この船はウェストバームビーチから出港、半日かけてグランドバハマ島のウェストエンドに入港し、船上にてバハマ入国手続きを行い、そこから北上してドルフィンサイトへ向かう。ドリームトゥー号の他にも、シェアウォーター号、ガルフストリームイーグル号などがウェストバームビーチから出ているが、どちらも普段はダイビングチャータークルーズが主体で、フルチャーターベースでのドルフィンクルーズを行っていない。また、ウェストバームビーチの南にあるマイアミやフォートローダーデールなどからも、ネクソン号、オーシャンエクスプローラー号、ボトムタイム2号などがドルフィンクルーズを行う事がある。

ちなみにドリームトゥー号は、今年から、新たに船を購入して、ドルフィンドリーム号になる予定。

## ドルフィンスイミングのシーズンは？

水温が上がり、海が安定してくる4月頃から、季節風が強くなる前の10月くらいまで。この中でベストシーズンと言うのは難しいが、4月くらいまではまだ水温が低く、海中にシーライスと呼ばれる目に見えないプランクトンがいて、体中刺さってしまう事もある。特に水着の縁に沿ってさされる事もあるので、女性は注意が必要。対応策はウォータープルーフの日焼け止めを塗るなどだが、効果がある人と無い人がいるようだ。5月末くらいから海水温、気温も上昇し、夏の天気になる。7月に近づくに従って、雷を伴ったストームなどが発生する事も多くなるが、普通はそれほど広範囲に広がる事はない。8、9月頃はハリケーンシーズンのため、当たらなければ海も穏やかだが、当たってしまうとドルフィンサイトに行くどころか、港から出港できない可能性も覚悟する必要がある。

**Bahama  
DolphinSite**